

港区基本計画・
芝浦港南地区版計画書

改定に向けた 提言書

港区基本計画・
芝浦港南地区版計画書

改定に向けた 提言書

運 河
canal

多世代
multi-generation

コミュニティ
community

子育て
childcare

ワーク
ショップ
workshop

P R
public relations

ベイ
エリア
bay area

サーキュラー
エコノミー
circular economy

体験
experience

水 辺
waterfront

文化
culture

SKDs
Shibaura
Kaigan 2・3chome, konan
Daiba
Sustainable

交 流
interaction

防 災
disaster prevention

つながり
connection

連 携
collaboration

リーダー、サブリーダーあいさつ

地区版計画検討分科会より



リーダー 金井 明さん

前回提言書はコロナ前に検討したため、コロナ禍では実現が難しいことも多かったと思います。今回with コロナ/コロナ後を見据え、どうできるか考えました。この地区をより良くしたいという同じ思いのもと、世代も背景も多様なメンバーの様々な意見から本提言書にまとめられました。今後の実現に期待しています。



サブリーダー 中村 直美さん

1年にわたり各世代の住民が対話・意見交換して、提言を作り上げました。会議ではメンバーが各テーマを全て「自分事」として捉え、高い意識のもと熱量高く活発に意見が出されました。全ての世代が、いつまでも安心して心豊かに暮らしていけるまちにしたいという思いから、この分科会や複数の地域活動に参加しています。今回の提言が、より一層美しくかがやく・にぎわう・はぐくむ「私たちの」まちづくりに貢献出来るよう願っています。



サブリーダー 斎藤 正信さん

どんな方向性を描いて事業を進めているのか、6か年計画の中間評価を通じてよく理解できました。次の3年が港区に住んでいる皆さまと港区の職員、港区の企業にとって有意義な事業になることを願っております。提言書の改善点が活かされ港区芝浦港南地区は「面白い」と思えるような事業を作って頂ければと思っています。ぜひ港区の事業に皆様も参画して気持ちを伝え、自分たちの地域を面白くしていける行動を共にしてまいりましょう。



サブリーダー 葛西 玲里さん

子どもが生まれてからこの地域に移り住んで来ましたが、子どもがここを「地元」として育って行くことを考えた時に、まちづくりに携わってみたいくなり参加しました。地域の特色や魅力、また、多くの方々が様々な取組をしていることをこの活動を通じて知ることができ、私自身も以前よりもこの地域に対して「地元」感を持つようになりました。これからも何らかの形でこの地域のまちづくりに協力をしていきたいと思っています。

目次

リーダー、サブリーダーあいさつ…………… P01

提言一覧…………… P04
・提言にあたって・提言一覧

地区版計画検討分科会について…………… P07
・目的・活動概要・メンバー構成

地域事業に関する提言…………… P11

かがやくまち

1 みずまちプロデュース事業…………… P12
2 水辺のまちサーキュラーLAB.…………… P14
3 ベイエリアみどりでつなぐプロジェクト…………… P16
4 ベイエリア防災リンク事業…………… P18

にぎわうまち

5 水辺フェスタ…………… P20
6 歴史と文化がつなぐ地域交流事業…………… P22
7 SKDs学びのまちプロジェクト…………… P24
8 みなとパーク芝浦ふれあい交流事業…………… P26

はぐくむまち

9 子育てあんしんプロジェクト…………… P28

資料編…………… P31
・地区版計画検討分科会における地域事業別検討資料の記録

提言にあたって

芝浦港南地区版計画検討分科会は、芝浦港南地区の在住者が集い、芝浦港南地区版計画書の改定に向けた提言を作成するため、令和4年4月から検討を重ねてきました。本提言は、芝浦港南地区総合支所で実施している下記9つの地域事業について、地区版計画検討分科会メンバー18名と区民の目線で地域事業の内容を評価し、改善すべき点を提言としてとりまとめたものです。

提言一覧

1 みずまちプロデュース事業 P12

- 地域資源を活用し、より多くの人に水辺の魅力が伝わるよう広域的な連携と情報発信を行う
- 企業や大学等と連携するなど、分科会メンバーに継続的な学びの場を提供する

2 水辺のまちサーキュラーLAB. P14

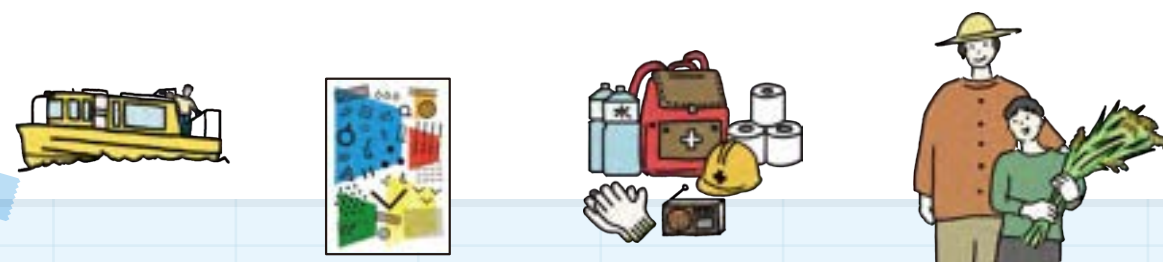
- 多世代に向けて、サーキュラーエコノミーを身近に体感できるような学びを提供する
- 水辺を通して、先進的な取組を学び、地域や企業との連携を深め、水辺の魅力を高める
- 芝浦港南地区それぞれの地域特性を活かした取組を行い、事業の認知度向上を図る

3 ベイエリアみどりでつなぐプロジェクト P16

- 幅広い世代が自然とふれあえる体験型の学習を拡大する
- グリーンマップの活用機会を増やすため、周知方法の工夫やコンテンツを充実させる

4 ベイエリア防災リンク事業 P18

- 地域特性を活かした参加したいと思えるような取組を通じて、一人ひとりの防災意識の向上を目指す
- 企業や団体等と区民の交流を促進する



かがやくまち

- みずまちプロデュース事業
- 水辺のまちサーキュラーLAB.
- ベイエリアみどりでつなぐプロジェクト
- ベイエリア防災リンク事業

にぎわうまち

- 水辺フェスタ
- 歴史と文化がつなぐ地域交流事業
- SKDs学びのまちプロジェクト
- みなとパーク芝浦ふれあい交流事業

はぐくむまち

- 子育てあんしんプロジェクト



5 水辺フェスタ P20

- 水辺の魅力を楽しみながらさらに多くの人々が気軽に参加・交流できるよう、取組内容の充実策を検討する

6 歴史と文化がつなぐ地域交流事業 P22

- 交流のきっかけとなった出来事に関連したプログラムを実施する
- 港区らしい体験を提供し、相互のPRに繋がるような取組を推進する

7 SKDs学びのまちプロジェクト P24

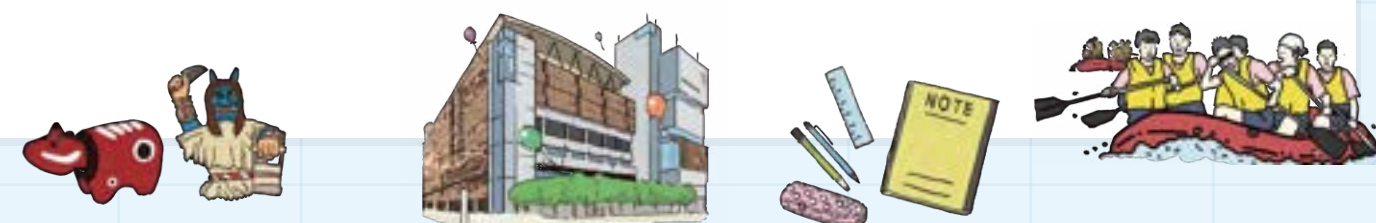
- 幅広い世代の人がまちの課題について継続的に学べるよう、地域を巻き込んだ事業内容や参加方法を工夫する

8 みなとパーク芝浦ふれあい交流事業 P26

- 文化やスポーツを通じ、世代を超えて地域住民がつながり交流できる仕掛けを検討する

9 子育てあんしんプロジェクト P28

- 子育ての不安解消になるような、地域ぐるみの子育て支援や交流の機会を充実させる
- 父親も含め多様な人が参加しやすい工夫をする



地区版計画検討分科会 について



地区版計画検討分科会について

1. 目的

「地区版計画検討分科会」(以下、「分科会」という)は、港区基本計画・芝浦港南地区版計画書(令和3年度～令和8年度)の改定に向け、幅広い世代の区民等の意見を反映した計画とするために設置された区民参画組織です。

分科会メンバーは、公募による芝浦港南地区の在住者で構成されています。

令和4年4月から活動を開始し、分科会メンバーが主体となって、地域の実情や課題、その解決の方策など意見を出し合い、検討結果を「提言書」としてまとめ、区に提出することを目的としています。

2. 活動概要

分科会では、事業実績等の把握や、地区内施設等の見学を通じて地域事業への理解を深めた上で、提言書の完成まで以下の概要で議論を積み上げました。

日程		内容
第1回	令和4年4月21日	オリエンテーション① ◆ 自己紹介 ◆ 港区基本計画・芝浦港南地区版計画書の概要について ◆ 芝浦港南地区版計画検討分科会の概要、検討する内容・進め方について
第2回	令和4年5月25日	オリエンテーション② ◆ 芝浦港南地区総合支所が取り組む地域事業について ◆ 学習会及び今後の検討の進め方について ◆ リーダー、サブリーダーの選出
学習会	令和4年6月19日	学習会 ◆ 芝浦港南地区内の地域資源の見学等
第3回	令和4年6月29日	ワークショップ ◆ 既存地域事業の評価と課題 ◆ 地域資源の活用方法 ◆ 地域事業見直しに向けた取組アイデアの発表など
第4回	令和4年7月27日	
第5回	令和4年8月24日	
第6回	令和4年9月28日	
第7回	令和4年10月26日	
第8回	令和4年11月30日	
第9回	令和4年12月21日	提言書案のまとめ ◆ 提言書(案)に関する全体調整
第10回	令和5年1月25日	提言書の最終確認 ◆ 提言書の確認 ◆ 提言式について
提言式	令和5年3月28日	区長に提言書提出

3. メンバー構成

分科会は、芝浦港南地区総合支所が設置する区民参画組織「港区ベイエリア・パワーアッププロジェクト」の中に設置しました。

分科会のメンバーの18名は、芝浦港南地区内在住の18歳以上の方を対象にした無作為抽出方式による公募及び地区内在住・在勤・在学者を対象にした一般公募により募集した方々です。

芝浦港南地区版計画検討分科会メンバー

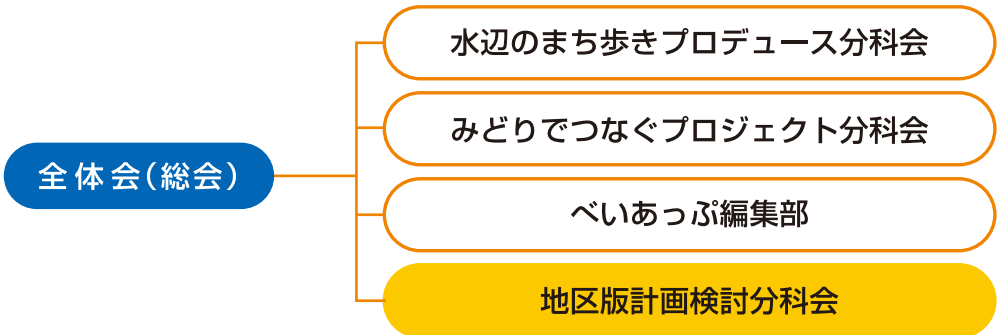
氏名	役割	氏名	役割
榎本 真理		鈴木 剛史	
岡部 正実		土田 明子	
小沢 健史		中村 直美	サブリーダー
葛西 玲里	サブリーダー	中村 菜美	
金井 明	リーダー	浜田 拓郎	
斎藤 正精		平田 咲織	
斎藤 正信	サブリーダー	Ma Sushuang	
白石 弘美		簗原 修	
須古 邦子		六島 寛	

※名簿への掲載は、分科会に複数回出席されたメンバーのみとしています。(敬称略 五十音順)

港区ベイエリア・パワーアッププロジェクト組織図(令和4年度)

＜港区ベイエリア・パワーアッププロジェクト＞

地域の魅力をより一層高め、誰もが輝くことができる創造力と潤いのあるまち・港区ベイエリアの実現を目指し、地域の皆さんと総合支所が一緒になって事業を検討します。



地域事業に関する提言



Theme 1 みずまちプロデュース事業

●みずまちプロデュース事業の概要

芝浦港南地区ならではの地域資源である運河や海辺の活用を図り、誰もが安らぎを感じ、憩いの場として人々が集える環境づくりを推進します。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
水辺空間の魅力 向上に向けた 取組の推進	区民参画による イベントの実施 (2回)	区民参画による イベントの実施 (2回)	区民参画による イベントの実施 (2回)	区民参画による イベントの実施 (2回)	区民参画による イベントの実施 (6回)
事業費(千円)		5,728	5,728	5,728	17,184

●主な取組

地域の方々の「まち」、「水辺」への愛着と理解を深めてもらうために、地域の魅力を発見・体感する機会として、様々なイベントを企画・実施しています。

〈令和3年度の実績〉

べいあっぷウォーキング ～わくわく新発見!歴史めぐりと 水上タクシー～(全1回)

参加人数 40名

水辺のまち歩きプロデュース分科会のメンバーがガイドを務め、各スポットの歴史や魅力について説明。水上タクシーでの運河めぐりも実施



ベイエリア講座 「ようこそ港区ベイエリアへ」 (全1回)

参加人数 25名

新たに芝浦港南地区に転入した区民を対象にしたベイエリア講座で、水辺のまち歩きプロデュース分科会メンバーが、地域の魅力紹介や運河クルーズのガイドを実施



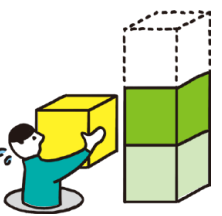
提言にむけた評価と課題

評価

- 水辺ならではの地域資源の活用(水上タクシー／クルーズなど)
- 区民参画メンバーが学べる機会や考える仕組みがある
- まち歩きやクルーズ体験を通して、地域の愛着が深まっている

課題

- 地域の企業や大学等との連携
- 分科会メンバーの学びの充実にむけた取組の実施



提言1

地域資源を活用し、より多くの人に水辺の魅力が伝わるよう広域的な連携と情報発信を行う

提言2

企業や大学等と連携するなど、分科会メンバーに継続的な学びの場を提供する

取組のアイデア



分科会メンバーの学びの充実にむけた取組の実施

芝浦港南地区の魅力を伝える語り部のような活動を継続して実施する

分科会メンバーの企画力やガイド力の向上に繋がる研修などの取組を実施する

クルーズやウォーキングなどの体験イベントを通して、水辺とふれあう機会を創出する



地域の企業や大学等と連携する取組

運河×地域に関わりのある団体×住民の有機的なつながりが創出されるような地域のお祭りなどの場でイベントを開催する

ウォーキングイベントで地域に関心を持てるような取組の実施

大学等と連携し、大学生や先生に分科会に参加してもらう、又は区民講座を開講する

分科会で作成したまちあるきマップを地域の企業に展開して活用してもらう

大学等と連携し、水辺に関する研究を行う

【COLUMN】水辺のまち歩きプロデュース分科会について

芝浦港南地区在住・在勤・在学者又は芝浦港南地区のために活動を希望する方で構成されている区民参画組織です。地域の方々に「まち」への愛着と理解を深めてもらうため、分科会メンバーの皆さんが知恵を出し合い、地域資源を活用したまち歩きイベント等を企画・運営しています。



Theme 2 水辺のまちサーキュラーLAB.



●水辺のまちサーキュラーLAB.の概要

運河の水質など環境改善に向けた気運を醸成するとともに、地区内の企業や大学等多様な主体と連携し、水辺エリアの魅力向上を図ります。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
多様な主体との 連携体制の構築 サーキュラー エコノミーにかかる 取組の検討・実施	-	多様な主体との 連携体制の構築 サーキュラー エコノミーにかかる 取組の検討	サーキュラー エコノミーにかかる 取組の実施(2回)	サーキュラー エコノミーにかかる 取組の実施(3回)	多様な主体との 連携体制の構築 サーキュラー エコノミーにかかる 取組の実施(5回)
事業費(千円)		3,000	3,000	3,000	9,000

●主な取組

環境問題について考えるきっかけを作るとともに、環境に配慮した暮らし方を地域と一緒に考えるため、地区内の企業等と連携し、サーキュラーエコノミーの視点を活用したワークショップなどを実施しています。

〈令和3年度の実績〉

オランダアムステルダム市と連携した「サーキュラーエコノミー」に関する講座(全4回)

参加人数 合計34名

オランダにおける食やモノの循環、水の活用に関する先進事例紹介



サーキュラーエコノミーに関する体験ワークショップ(全6回)

参加人数 合計53名

身近な植物を使ったポストカード製作、廃食用油を使った石鹸製作体験など



提言にむけた評価と課題

評価

- 子どもを対象としたワークショップの実施
- 地域の多様な主体と連携した取組
- 海外の先進都市と連携した取組

課題

- 多様な主体(多世代、企業や学校、芝浦港南周辺の他自治体)を巻き込む工夫
- 多様な主体との連携により、水辺を通じて波及効果や相乗効果を生み出す取組
- SNS等を活用した事業の認知度の向上



提言1 多世代に向けて、**サーキュラーエコノミー**を身近に体感できるような学びを提供する

提言2 水辺を通して、先進的な取組を学び、**地域や企業との連携を深め、水辺の魅力**を高める

提言3 芝浦港南地区それぞれの**地域特性を活かした取組**を行い、事業の認知度向上を図る

取組のアイデア

💡 多様な主体(企業や学校等)と連携し、波及効果と相乗効果を考慮した水辺を活かす取組

水辺の環境改善に取り組んでいる企業と連携し水辺に関連した取組を増やす

事業に参加したいと思えるよう、参加者にインセンティブを与える(ポイント付与等)

水辺付近に位置する企業と連携し空き倉庫を活用した、ワークショップを行う

他地区の水辺での取組との連携やサーキュラーエコノミーの先進国の事例から学ぶ

企業が協力したくなるような、取組を検討する

💡 SNS等を活用した事業の認知度向上

デジタル広報媒体(デジタルサイネージ、SNS、動画配信、テレビ等)を幅広く活用し、告知場所・告知方法を増やして認知度を高める

企業や学生、住民にサーキュラーエコノミーという言葉も含め、より身近に感じてもらえるように、日常生活に定着するようなワークショップを実施する

対象者層を子どもだけでなく大人までの多世代に広げる

事業の成果物を人が多く集まる場所で周知・広報をする

【COLUMN】サーキュラーエコノミーについて

サーキュラーエコノミー(循環型経済)とは、これまで廃棄されていた製品や原材料を新たな資源と捉え、廃棄物を出すことなく、資源を循環させる経済の仕組みです。実現には、メーカー・小売・回収・リサイクル企業など様々な業種の連携や、地域住民等の消費者の協力など、あらゆる人々の協働が必要不可欠です。日々の生活において廃棄物等を減らすことができれば、運河の水質や私たちの周辺の生活環境にも良い影響を与えることができ、環境に優しいだけでなく、持続可能な経済成長を実現することにつながります。

Theme 3 ベイエリアみどりでつなぐプロジェクト

● ベイエリアみどりでつなぐプロジェクトの概要

他地区と比較し、緑被率が低い現状を踏まえ、区民や事業者と協力し、みどりの保全と創出に向け、地域特性に応じた緑化を推進します。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
緑化に関する普及・啓発	稲作体験 稲刈り(1回)	稲作体験 田植え・ 稲刈り(各1回) ミニ農園体験 (2回)	稲作体験 田植え・ 稲刈り(各1回) ミニ農園体験 (2回)	稲作体験 田植え・ 稲刈り(各1回) ミニ農園体験 (2回)	稲作体験 田植え・ 稲刈り(各3回) ミニ農園体験 (6回)
みどりに親しむ 機会の充実	グリーンツアーの 中止※	グリーンツアーの 実施(1回)	グリーンツアーの 実施(1回)	グリーンツアーの 実施(1回) みどりと水辺の 散策マップの作成	グリーンツアーの 実施(3回) みどりと水辺の 散策マップの作成
事業費(千円)		3,152	3,152	3,503	9,807

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事業を中止しました。

● 主な取組

地域の自治会と連携した田んぼでの田植え・稲刈り体験や、区民参画組織メンバーによる地域のみどりをめぐるまち歩きなどを通じて、植物にふれあい、自然を大切にすることを育むための普及・啓発を実施しています。

〈令和3年度の実績〉

田植え・稲刈り・収穫イベント(全4回)

参加人数 130名

芝浦公園の田んぼで稲刈り体験や、保育園児とトウモロコシや枝豆、小松菜などを収穫



べいあっぷグリーンツアー(全2回)

参加人数 22名

地域のみどりをめぐるまち歩きツアーの実施



提言にむけた評価と課題

評価

- 農業体験を通じ、自然に触れあえる機会がある
- グリーンツアーが地域の緑を知る機会となっている

課題

- 田植え・稲刈り体験から食育・環境学習につながる工夫
- グリーンマップの活用と周知の工夫



提言1

幅広い世代が自然とふれあえる**体験型の学習を拡大する**

提言2

グリーンマップの活用機会を増やすため、周知方法の工夫やコンテンツを充実させる

取組のアイデア

食育・環境学習につながる工夫

田植え体験などの自然体験(港区内外問わず)の機会を増やす

地域ブランドとして屋上を農場として活用するなど、まちづくりデザインの一環としてPRする

収穫体験だけでなく、収穫したものを参加者で調理して食べられるような食育につながる内容にする

マンションのベランダでもできる、家庭菜園講座を定期的に実施する

地域で育てている花木等の剪定物や、苗を配布する

地産地消の地元商品を開発して売り出す

グリーンマップの活用に向けた取組

グリーンマップを広報紙やSNS等で案内するだけでなく、区民へ配布、人が多く集まる場所等に設置するなど広報の方法を工夫する

四季折々のグリーンマップを作成し、グリーンマップウォーキングを開催する

グリーンマップの各スポットにQRコードを掲載し、植物の詳細説明が表示されるようにする

グリーンツアーで拾った植物(どんぐり等)を活用したワークショップ講座を実施する

まちなかで住民が見つけた植物を発信する場を設ける

【COLUMN】グリーンマップについて

べいあっぷグリーンツアーでは、その回ごとにルートやツアー中に見られる、樹木や草花の特徴・クイズや写真などを記載した「グリーンツアーガイドマップ」を作成しています。グリーンマップはその集大成として芝浦港南地区にある「みどり」を再発見するため、みどりのある場所やみどりを巡るルートなどを取りまとめて掲載するものです。





●ベイエリア防災リンク事業の概要

地震等の災害に備えるための地域防災連絡会等を対象としたセミナーの実施により、事業者向けに災害時に助け合える防災力向上を促進し、地域住民や事業者、区との連携強化を推進します。また、地域住民が楽しく気軽に防災の知識や備えについて学べるイベント等を実施します。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
事業者・地域住民 向け防災力の向上	防災教育	事業者向け 防災ワーキングセミナー の実施(2地域)	事業者向け 防災ワーキングセミナー の実施(2地域)	事業者向け 防災ワーキングセミナー の実施(2地域)	事業者向け 防災ワーキングセミナー の実施(6地域)
	防災知識の 普及・啓発	防災啓発・周知 のための防災 イベントの実施(2回)	防災啓発・周知 のための防災 イベントの実施(2回)	防災啓発・周知 のための防災 イベントの実施(2回)	防災啓発・周知 のための防災 イベントの実施(6回)
事業費(千円)		1,299	1,299	1,299	3,897

●主な取組

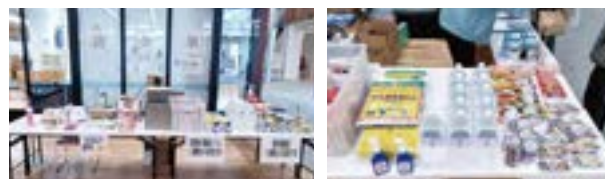
地域住民が楽しく気軽に学べるよう、企業や大学と連携して、防災普及啓発のためのイベントを実施しています。また、災害時に助け合える防災力向上促進のため、事業者向けに防災啓発ワーキングセミナーを実施し、地域と事業者とが連携した防災対策を支援しています。

〈令和3年度の実績〉

防災用品展示(全1回)

参加人数 678名

企業や大学と連携した防災展を防災とボランティア週間にあわせて実施



ワーキングセミナー(全2回)

参加人数 22社

事業者向け防災啓発ワーキングセミナーをオンラインで実施



提言にむけた評価と課題

評価

- 地域事業の活動として大切な事業になっていること
- 地域と企業や団体等が連携した事業であること

課題

- 高層住宅やビルが多いなどの芝浦港南地区の地域特性を踏まえて、防災対策をより多くの在住・在勤者に知ってもらい、防災意識を高めることが必要
- 事業者が地域住民と交流ができるような事業内容の検討



提言1

地域特性を活かした参加したいと思えるような取組を通じて、**一人ひとりの防災意識の向上を目指す**

提言2

企業や団体等と区民の交流を促進する

取組のアイデア

💡 地区特有の防災対策をより多くの在住・在勤者に知ってもらうための工夫

パネル展開催時にセミナー等のイベント(階段の昇り降り体験・避難ルート確認ツアーや防災グッズの使い方ワークショップ等)を一体的に開催する

地域内の施設でパネル展示の巡回を行うなど、開催場所を増やし伝える工夫をする

防災対策に関する事業者の優良な取組を地域にアピールする

防災対策に関わる高層ビルの取組を、展示やセミナーで幅広い層に周知する

一人ひとりが災害時に対応できるよう、避難場所や災害に対する備えなどを学べる防災オリエンテーリング等を企画する

💡 事業者向けの防災セミナーで地域住民との交流促進

地域の消防や警察、防災協議会などと協働し、住民と防災に関する情報交換ができるセミナー等を実施する

セミナー終了後に、参加者同士が交流できる場を提供する

事業者や地域住民が協力しながら、体験型の防災イベントやセミナーを実施する

【COLUMN】芝浦港南地域の地域特性について

芝浦港南地区は、大小さまざまな運河や東京湾など水辺が身近にあるベイエリアです。また、万が一火災が発生しても、地区内での大規模な延焼火災が起きにくい地区(地区内残留地区)に指定されています。近年の大規模な再開発により、オフィスやマンションなどの高層建築物も多く存在し、人口増加が著しい地域のため、地域住民や事業者等と区が連携し、災害時に助け合える地域防災力の向上を促進する必要があります。



●水辺フェスタの概要

身近な水辺資源を活用し、芝浦・海岸二・三丁目地域、港南地域、台場地域の各地域住民のつながりを深めるとともに、長く住んでいる地域住民と新たな地域住民との交流の場を創出します。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
地域住民同士の コミュニティ形成	地域対抗 ボートレース 大会等の中止※	地域対抗 ボートレース 大会等の実施(1回)※	地域対抗 ボートレース 大会等の実施(1回)	地域対抗 ボートレース 大会等の実施(1回)	地域対抗 ボートレース 大会等の実施(3回)
事業費(千円)		5,217	5,217	5,217	15,651

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事業を中止しました。

●主な取組

公募区民により構成された実行委員会による企画・運営のもと、芝浦港南地区の3つの地域(芝浦・海岸二・三丁目地域、港南地域、台場地域)対抗のボートレース大会を中心としたイベントを実施しています。

〈令和3年度の実績〉

地域の皆さんとともに、これまでの活動の様子をPR映像としてまとめ、区のホームページで発信。



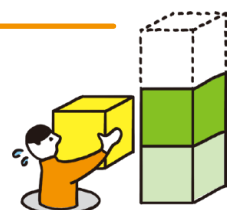
提言にむけた評価と課題

評価

- 事業目的と事業内容が合致していること
- 芝浦港南地区の地域特性を生かした取組であること
- 地域対抗のため、参加者同士の交流の場になっていること
- 競技参加者、応援者、観客など多くの人が参加できるイベントであること

課題

- 水辺の魅力をより身近に感じるためにさらなる工夫が必要
- 芝浦・海岸二・三丁目、港南、台場の3地域の交流やコミュニティ形成のさらなる促進につながる取組の検討



提言 1

水辺の魅力を楽しみながらさらに多くの人が
気軽に参加・交流できるよう、取組内容の充実
策を検討する

取組のアイデア

💡 イベントを通じて水辺の魅力を身近に感じる工夫

子どもや競技に参加しない人も水辺を楽しむことができる内容を企画し、同時開催する(ビーチバレー、SUP、ビーチフラッグなど)

水辺に親しめるよう、花火などでイベントを華やかに演出する

優勝者には豪華賞品を準備する、全参加者に参加賞を用意するなど、モチベーションが上がる内容にする

💡 3地域の交流やコミュニティ形成の促進につながる取組

団体では応募できない層に対して、個人申込者同士でチームが形成できる仕組みをつくる

運営側と参加者側の交流の場を設ける

周知の方法を改善し、参加方法をわかりやすくする

地域間の交流ができる場として飲食エリアを設置するなど、交流を促進するための工夫をする

誰でも気軽に参加できるように、当日参加可能な競技やボートレース以外の競技も設ける

イベント開催後の報告のみを広報誌で行うだけでなく、事前の広報・周知を徹底する

【COLUMN】水辺フェスタ開催の歴史

平成19(2007)年度の第1回の水辺フェスタは、高浜運河を会場とし、芝浦港南の3地域対抗戦で6人乗りのゴムボートレースを行いました。第1回は6レース108人の参加者でスタートしましたが、第13回の令和元(2019)年度には、25レース480人が参加する盛況な催しとなりました。第2回はお台場海浜公園、第3回は芝浦西運河で実施しましたが、第4回目以降はお台場海浜公園で開催しています。第16回の令和4(2022)年度は、ボートレースに加え、気軽に参加できるボート体験を行いました。毎年公募する実行委員が区と一緒に企画・運営を行い、大会を盛り上げています。

Theme 6 歴史と文化がつなぐ地域交流事業

●歴史と文化がつなぐ地域交流事業の概要

芝浦港南地区と交流のある秋田県にかほ市や福島県柳津町に、子どもたちをはじめとした住民がお互いの地域を訪れ、農業体験や豊かな自然を体験する機会、伝統文化に触れる機会を創出します。



全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
秋田県にかほ市と 福島県柳津町との 交流の促進	秋田県にかほ市 との交流事業の 休止※ 福島県柳津町 との交流事業の 実施※	秋田県にかほ市 との交流事業の実施 (1回)※ 福島県柳津町 との交流事業の 実施(2回)※	秋田県にかほ市 との交流事業の実施 (2回)※ 福島県柳津町 との交流事業の 実施(2回)※	秋田県にかほ市 との交流事業の実施 (2回) 福島県柳津町 との交流事業の 実施(2回)	秋田県にかほ市 との交流事業の実施 (5回) 福島県柳津町 との交流事業の 実施(6回)
事業費(千円)		1,099	1,257	1,257	3,613

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事業を休止しました。

●主な取組

子どもたちを始めとした住民同士がお互いの地域を訪れ、豊かな自然を体験する機会などを設けています。

〈令和元年度の実績〉

秋田県にかほ市との交流

参加人数 15名

にかほ市の一般家庭に子どもたちがホームステイし、そば打ちや湿原ハイキングなどの自然体験を実施



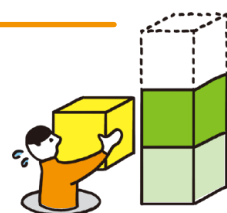
福島県柳津町との交流

参加人数 81名

柳津町では赤べこの絵付け等の伝統文化体験や福島県名物の「あわまんじゅう作り」体験を、お台場では海辺等に親しめる体験を実施



提言にむけた評価と課題



評価

- 地域と関係ある地方都市との交流事業であること
- 都会の子どもが田舎で農業など自然体験ができること
- 自然体験だけでなく、一般家庭にホームステイするなど、交流先の地域の人との交流ができること

課題

- 交流事業の参加者が港区へ訪れた際の受け入れ態勢・内容の検討
- 交流事業の参加者以外の地域の方に広く事業を知ってもらうための工夫

提言1

交流のきっかけとなった出来事に関連したプログラムを実施する

提言2

港区らしい体験を提供し、相互のPRに繋がるような取組を推進する

取組のアイデア



交流事業の参加者が港区へ訪れた際の受け入れ態勢・内容の検討

ドラマやアニメの舞台めぐりやテレビ局見学、レインボーブリッジといった芝浦港南地区でしかできない都会体験を提供する

交流促進のため、東京湾クルーズなど地域資源を活用し、子どもが楽しめる機会を提供する

交流のきっかけとなった出来事に関連したプログラムを検討する

港区観光大使が港区の文化・歴史に関して紹介するなど、発信の場を設ける

芝浦港南地区の地域事業(例えば水辺フェスタなど)に参加してもらうプログラムを検討する



交流事業の参加者以外の地域の方に広く事業を知ってもらうための工夫

交流・体験した方に取材を行い、具体的な体験談とともに交流事業のきっかけに関する情報を広く区民に周知する

交流先へ行くだけでなく港区内でも子どもを受け入れ、相互交流を行う

連携都市として、港区民限定特典などの体験メニューを充実させる

柳津町の物産展などを事業者等と連携し、企画する

お台場の花火大会が復活した際には、柳津町との関係性を毎年紹介する

【COLUMN】交流のきっかけ

●秋田県にかほ市との交流：平成22(2010)年は、白瀬轟(しらせ のぶ)隊長率いるわが国初の南極探検隊が芝浦の地を出航して100年に当たりました。これを契機に、白瀬隊長の出身地である秋田県にかほ市と相互の地域文化交流促進及び子どもの健全育成に寄与する交流が始まりました。

●福島県柳津町との交流：福島県柳津町が、お台場15周年花火大会の花火師を復興交流の花火大会に招いたことがきっかけとなり、平成23(2011)年度から柳津町と台場地域の交流が始まりました。例年、夏は台場地域の子どもたちが柳津町を訪問し、冬は台場地域に柳津町の子どもたちが訪れる相互交流を実施しています。

Theme 7 SKDs 学びのまちプロジェクト

●SKDs学びのまちプロジェクトの概要

若年層を対象に企業や大学等と連携し、地域活動や地域コミュニティに関する意識を高め、地域の魅力等について学ぶための講座やワークショップを実施します。講座等を通じて、地域活動やボランティア活動を担う人材の育成を支援します。



全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
地域における 担い手の育成	-	企業や大学等と 連携した講座 ワークショップの 検討・実施(4回)	企業や大学等と 連携した講座 ワークショップの 実施(4回)	企業や大学等と 連携した講座 ワークショップの 実施(4回)	企業や大学等と 連携した講座 ワークショップ (12回)
事業費(千円)		2,917	4,328	4,328	11,573

●主な取組

東京工業大学附属科学技術高等学校や芝浦工業大学の学生と一緒に、地域の企業に取材へ行くなど、地域の魅力等について学ぶための講座やワークショップ等を行っています。

〈令和3年度の実績〉

小学生向け事業 「まちをみるめ」

他者を思いやる気持ちを育み、興味や関心の幅を広げていくため自分以外の「みるめ(視点)」になって学校内を観察

中学生向け事業 「運河学習」

東京海洋大学の教授による運河学習を実施



小学生向け事業「まちをみるめ」

高校生向け事業 「SDGsアクションブック作成」

SDGsの取組に力を入れる地区内の企業や団体を高校生が取材し、3年間かけてアクションブックを作成(令和5年度完成予定)

大学生向け事業 「課題解決型授業」

「地域の課題」を大学生が考え、協働推進課長へプレゼンテーションを実施



高校生向け事業「SDGsアクションブック作成」



提言にむけた評価と課題

評価

- 小学生、高校生、大学生などが継続して参加できること
- 若い世代に対して、地域課題や地域を知ってもらえること
- 地域課題を学ぶだけでなく自分事として「みるめ」を育てられること
- 企業・大学等の他団体と連携した取組内容になっていること

課題

- 20代～40代の若年層が関心を持てる取組内容の検討
- 高校生向けの取組(SDGsアクションブック作成)が令和5年度で終了するため、高校生向けの新しい取組の検討
- 事業を多くの人に知ってもらい、継続的な参加につながるような工夫



提言 1

幅広い世代の人がまちの課題について継続的に学べるよう、地域を巻き込んだ事業内容や参加方法を工夫する

取組のアイデア

💡 20代～40代を中心とした「より地域とつながる」新たな取組

子育て世代を対象としたプログラムを実施する(ママ会、パパ会など)

親子で参加できるイベントを実施する

オンライン等ICTを活用したイベントを実施する

地元の企業や大学の見学会をさらに充実させる

健康増進など、幅広い世代に関心を持ってもらえるテーマを検討する

高輪ゲートウェイ駅周辺の開発に合わせて地域の産業・企業と連携した取組を検討する

💡 高校生向けに「より地域とつながる」新たな取組

高校生が多世代に対して発表できる場を設ける

特定の高校に限定せず、地区在住の高校生向けに、地域の企業や大学を知る機会を提供する

💡 多くの人に知ってもらい、参加につながる工夫

事業名が分かりづらいので、より伝わりやすい表現に変更する

SDGsアクションブックの内容を高校生が講師となって小・中学生へ展開する

ボランティアなどの参加を通して、地域活動に接する機会を増やす

事業活動をアーカイブで閲覧可能にするなど、事業内容に関する情報発信を行う

若い世代に興味を持ってもらうため、SDGsについて遊びながら学ぶ機会を提供する(SDGsカードゲームなど)

地元住民が講師やファシリテーターとして、小・中学生や高校生へ芝浦港南の歴史や魅力を教える場を設けるなど、活躍できる講座を開催する

【COLUMN】SKDsとは

S[芝浦]、K[海岸二・三丁目、港南]、D[台場]、s[Sustainable(持続可能な)]を意味し、新規事業を立ち上げる際に区職員が考案しました。

【COLUMN】SDGsについて

SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12(2030)年までに持続可能でより良い世界をめざす国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っており、普遍的なものとして全ての国で取組が進められています。

Theme 8 みなとパーク芝浦ふれあい交流事業



●みなとパーク芝浦ふれあい交流事業の概要

みなとパーク芝浦の各施設等や伝統文化交流館が連携し、イベント等の開催を通じて交流することで、世代を超えた地域コミュニティの醸成及び地域の活性化を図ります。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
地域の 世代間交流や コミュニティ形成	みなとパーク芝浦 各施設等と 連携したイベント の中止※ 展示の実施	みなとパーク芝浦 各施設等と 連携したイベント 等の実施(1回)※	みなとパーク芝浦 各施設等と 連携したイベント 等の実施(1回)	みなとパーク芝浦 各施設等と 連携したイベント 等の実施(1回)	みなとパーク芝浦 各施設等と 連携したイベント 等の実施(3回)
事業費(千円)		2,700	3,150	3,150	9,000

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事業を中止しました。

●主な取組

「みなとパーク芝浦」内にある芝浦港南地区総合支所、消費者センター、介護予防総合センター、男女平等参画センター、港区スポーツセンターの各施設等と連携し、地域における世代間交流の場となるイベントを実施しています。

〈平成30年度実績〉

みなとパーク芝浦フェスティバル

参加人数 9,594人(2日間開催の延べ人数)

「みなとパーク芝浦」内にある各施設において、芝浦港南地区KIDSフェスタ、港区消費生活展、障害者スポーツ普及イベント、ラクっちゃチャレンジパーク、男女平等参画フェスタを開催しました。

※令和元年度、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベントを中止しました。



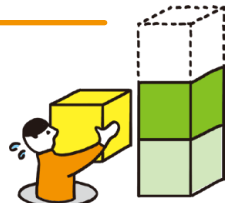
提言にむけた評価と課題

評価

- 事業の目的としてコミュニティの形成を目指していること
- 既存のイベントが子どもも楽しめそうな内容であること
- イベントの参加者数が多いこと

課題

- 感染症対策を講じながらイベント開催に向けて工夫することが必要(入場制限等)
- 地域の多世代交流を一層促進し、文化・芸能・スポーツ等を活用したコミュニティ形成につながる取組の実施が必要



提言 1

文化やスポーツを通じ、**世代を超えて地域住民がつながり交流**できる仕掛けを検討する

取組のアイデア

💡 感染症対策を講じたイベントの開催方法の工夫

集客が偏らないよう休日だけでなく平日も開催するなど、イベントの開催期間を延長する

感染症対策のため、スタンプリヤや地域の既存の屋外イベントと連携するなど、屋外で実施することができるイベントを充実させる

感染症対策のため、開催場所を分散できるように、伝統文化交流館や公園、他施設の活用も検討する

💡 芝浦港南地区KIDSフェスタや他の取組をつなぎ、地域の世代間交流を促す

シニア世代が伝統文化や地域の歴史を教えるワークショップの開催など、子どもから高齢者まで一緒に学べる体験型のクイズラリーやまちあるき等のイベントを企画する

車椅子体験などを通じて、多様性の理解につながるイベントを企画する

事業名の「ふれあい」を強調し、幅広い世代や多様な人々が対象になるようなイベント名を検討する

【COLUMN 「みなとパーク芝浦」について

「みなとパーク芝浦」は、芝浦港南地区総合支所、消費者センター、介護予防総合センター「ラクっちゃ」、男女平等参画センター「リーブラ」、港区スポーツセンターなどが入る港区最大規模の複合施設です。また建物は、基本構想の段階から区民参画により計画を策定し、東日本大震災を踏まえた防災機能の強化を図ったほか、建物への様々な先進技術の導入や国産木材を積極的に活用した二酸化炭素削減への取組など、区民の皆さんが末永く誇れる施設です。





●子育てあんしんプロジェクトの概要

保健師・助産師・管理栄養士・臨床心理士からなるプロジェクトチームが、身近な地域の児童施設等を会場として、子育てに関するノウハウの提供や家庭環境に応じた個別相談に応じるなど、妊娠期から子育てに関する様々な不安や悩みの軽減を図るとともに、保護者の心身の健康を支えます。

全体計画目標 令和8(2026) 年度末	現状 令和2(2020) 年度見込	年次計画(スケジュール)			
		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	計
家庭や地域の 子育て力の向上	育児に関する計測 及び相談※(55回)	育児に関する計測 及び相談※(75回)	育児に関する計測 及び相談(75回)	育児に関する計測 及び相談(75回)	育児に関する計測 及び相談(225回)
	育児に関する 交流の機会の 創出※(10回)	育児に関する交流の 機会の創出※(15回)	育児に関する交流の 機会の創出(15回)	育児に関する交流の 機会の創出(15回)	育児に関する交流の 機会の創出(45回)
事業費(千円)		9,543	9,543	9,543	28,629

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部事業を休止しました。

●主な取組

地域特性や様々な子育てのニーズに対応していくため、子育てに関する相談の機会を設けるとともに、子育て世代の交流の場を作ることで、地域での仲間づくりやネットワークづくりを促進し、家庭や地域の子育て力の向上を支援しています。

〈令和3年度の実績〉

育児相談

実施回数 61回(14回中止)

子育てに関するノウハウの提供
や家庭環境に応じた個別相談

かるがもくらぶ

実施回数 11回(4回中止)

生後2～5か月の子どもや保護者
を対象とした子育てミニ講座等

プレママ相談

実施回数 20回(4回中止)

赤ちゃんのお風呂の入れ方や赤ちゃん用品の揃え方など、赤ちゃんを迎える準備支援



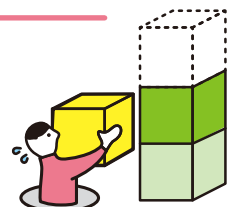
提言にむけた評価と課題

評価

- 参加者同士の交流の場になっていること
- 子育て世帯が不安に感じる問題に取り組んでいること
- 定期的に開催されており、人気が高い事業だということ

課題

- 外出の機会が少ない低月齢乳児の保護者同士で、子育ての悩みや不安を共有することができる、情報交換の場や住民同士の交流の場を工夫する必要がある
- 「かるがもくらぶ」をより魅力的なプログラムにするための工夫



提言1

子育ての不安解消になるような、**地域ぐるみの子育て支援や交流の機会**を充実させる

提言2

父親も含め多様な人が参加しやすい工夫をする

取組のアイデア

💡 孤立化を防ぐための地域での交流促進

月齢の近い乳児の保護者同士(母親も父親も)がつながれるよう、事業を工夫する

持続的な交流につなげるため、単発的なイベントではなくシリーズ化して開催する

子どもを連れていつでも自由に行くことができ、保護者同士や子育て経験者等と交流できるような場所を設ける

💡 「かるがもくらぶ」の参加者の層の拡大と、魅力的なプログラムの工夫

母親だけでなく父親も一緒に参加できるよう、開催日や案内方法を工夫する

母親向け、父親向け、両親向けなど、対象者を絞ったプログラムや交流会、相談会等を企画する

父親も参加しやすいイベント名を検討し、積極的に周知する

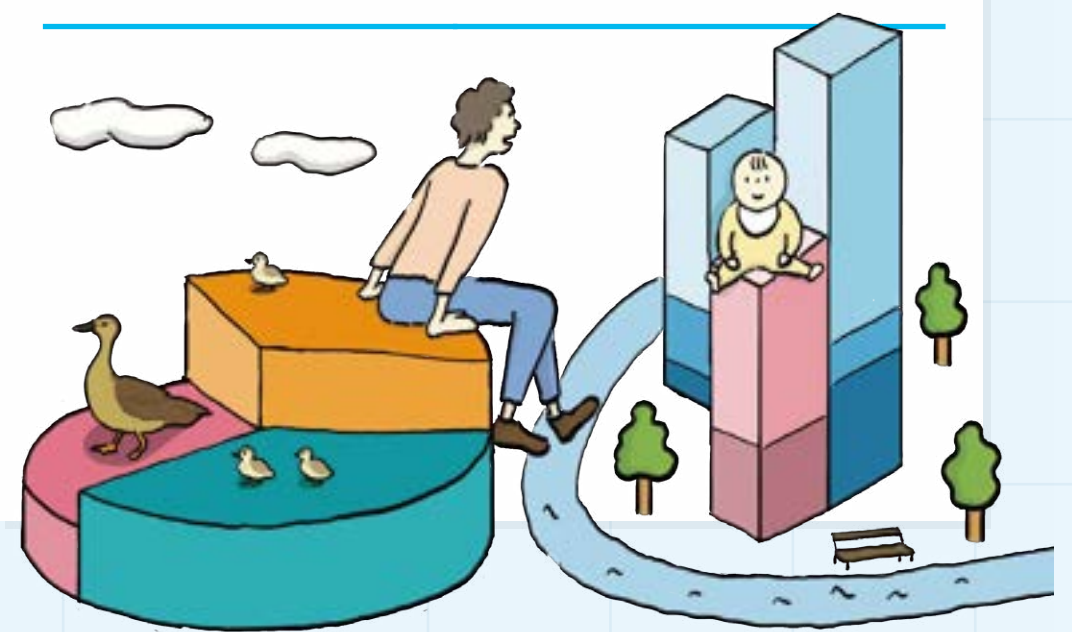
対象者を低月齢に限定せず、上限を引き上げ、育児の悩みを相談できるような場として参加者を募集する

講座形式のプログラムは動画化して、ウェブ上で閲覧可能にする

【COLUMN】かるがもくらぶとは

生後2～5か月のお子さんと保護者を対象に、芝浦港南地区で開催している地域の仲間づくりのための交流会です。子育て家庭が孤立しやすい時期に、外出の機会として集い、育児の悩み等を専門職(保健師・助産師・管理栄養士・臨床心理士)に相談することで、育児不安の軽減を図っています。同月齢の保護者と知り合えてよかった、楽しかったと好評の事業です。

資料編



「みずまちプロデュース事業」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	・ 水上タクシー ・ 芝浦運河まつりは良いと思う ・ 連携する企業や大学にもメリットがあること ・ 区民が学べる機会を提供し、考える仕組みが良い ・ 水陸両用バスに乗りながらお台場の歴史を紹介する講座（経験すると住民になったという実感が湧く） ・ まち歩きやクルーズ体験で住民（参加者）の地元への愛着が深まった ・ 区民参画メンバーが企画・実施していること ・ レインボーブリッジの夜のウォーキング ・ 景色（海の上からの景色、水上タクシーに乗れるなど） ・ 水辺ならではの交通手段の利用（水上タクシー、水陸両用バス） ・ 歴史を学べること ・ お台場ツアー、運河めぐり、ウォーキングイベント
----	---

2 地域の企業と大学と連携するには？

改善／ 取組 アイデア	<大学との連携> ・ 大学等と連携して区民講座を開講する。東京海洋大学と区民講座を実施し、学生や教授にも分科会に参加してもらう ・ 分科会で作成したまち歩きマップを企業に展開して活用してもらう ・ 大学と連携し、水辺に関する研究を行う <企業との連携> ・ 芝地区の企業も巻き込みたい ・ 倉庫会社との協働活動を考える（倉庫内のスペースをイベントに活用など） ・ 企業の参加を得るには、企業のメリットを考慮することが必要 <プログラムについて> ・ ウォーキングイベントの途中で買い物タイムを設ける（地元商店を知ることができる） ・ 他地区（芝等）の区民向けに芝浦港南地区の魅力を伝える（芝地区の語り部のような事業） ・ イベントの中に運河の歴史講座を入れる ・ 地域創生と地域ブランディング ・ 学びを深めるためウォーキングイベントの中でお店のバックヤード見学を実施（水辺のまちサーキュラーLAB.の取組を参考に） <その他横断的な提案> ・ 産・官・学・民の連携の必要性 ・ 地域のお祭りなど、運河×商店街×住民の有機的なつながりを創出するような場でイベントを開催する。商店街やタワーマンションのイベントと連携 ・ 「ウォーターフロントデザイン特区」にするのはどうか ・ 分科会メンバーの学びの場→地元大学・企業の協力（今まで一部会場として借りることや、訪れることはあったが、場所の提供以外の協力や連携方法の検討が必要）
-------------------	---

3 みなさんが分科会メンバーだとしたら、どんな学びを期待しますか？

改善／ 取組 アイデア	<学ぶ内容について> ・ 分科会メンバーの勉強会・学習会を実施、分科会メンバーの企画力向上につなげる ・ クルーズやウォーキングなど自然とふれあう体験イベントの実施 ・ 芝浦港南地区の魅力を伝える語り部のような取組活動を実施する ・ カニ護岸の生態系について学ぶ ・ 防災と水辺の活用を知る ・ 船について勉強する企画 <まち歩きイベントについて> ・ 人気のある水上タクシー・クルーズの両事業の継続 ・ 水上タクシーの乗船時間を1回10分程度とし、参加できる人数を多くする ・ 運河クルーズの魅力を紹介、海洋プラスチックなどの環境問題を取り入れる ・ 参加人数を多くするため、屋形船の活用
-------------------	---

4 その他のご意見・提案

改善／ 取組 アイデア	<プログラムについて> ・ 感染症が落ち着いてきたので、イベント参加可能人数を増やす ・ 釣りイベントの実施 ・ 説明付きのガイド・コースを民間旅行会社に活用してもらう ・ ウォーキングコースの動画発信や生配信の実施 <事業全体について> ・ イベントの告知方法を工夫する ・ より水辺を活用する事業にしてほしい <その他> ・ 台場に大砲など、地域の歴史を感じるモニュメントを設置
-------------------	--

「水辺のまちサーキュラーLAB.」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	＜参加者について＞ ・小学生に参加してもらったことが良かった ＜実施形態について＞ ・オンライン講座の実施 ＜プログラムについて＞ ・海外先進事例の講座の実施 ・身近なものやごみを扱ったワークショップの実施 ・サーキュラーエコノミーの視点 ・オランダとの連携 ＜その他＞ ・橋りょうのライトアップ ・水上タクシー ・地域の商店や企業と連携 ・コンポストを活用して家庭ごみを減らすアイデアは良い
----	---

2 もっといろんな人に知ってもらうには？

改善／ 取組 アイデア	＜周知について＞ ・無関心の層へ知らせる努力 ・大人を対象としたワークショップの開催 ＜実施形態について＞ ・ワークショップ1回あたりの参加者が少ない、固定化している ・水辺の取組を行っている他地区との連携（例：日本橋） ・企業が参加したくなるような事業内容を検討する ・日本水フォーラムとの連携を検討してはどうか ・水辺付近に位置する企業と連携し空き倉庫を活用したワークショップを行う ・東芝ビル跡地のエリアマネジメント活動が進行しており、参考になるかもしれない。アイデアソンを開催して企業連携する ※アイデアソン：新しいアイデアを生み出すために決められた時間内で意見を出し合うワークショップの一種 ・継続して実施できるよう連続企画「LAB. スクール」等としてワークショップを実施する ・学校の授業として取り入れる ＜プログラムについて＞ ・水辺の環境改善に取り組んでいる地元企業との連携。「サーキュラーエコノミー」を学ぶことや日常生活に定着するような連携を実施 ・学生や企業の新入社員を対象にサーキュラーについて考えてもらうアイデアソンの実施 ・なぜオランダとの連携をしているのかについて、説明が不足している ・水辺に関連したイベントの取組やSNSへの投稿を増やす ・事業に参加したいと思えるよう、参加者にインセンティブを与える（ポイント付与等）
-------------------	--

- ・無関心層が興味を持てるよう、テーマを絞ってイベントを実施する（「鳥好きのための企画」等）
- ＜情報発信の強化について＞
- ・品川駅自由通路に設置されているディスプレイの行政放映枠の活用
- ・田町駅にデジタルサイネージを設置
- ・区内にあるテレビ局を活用
- ・YouTuber に来てもらう
- ・事業に関する情報発信が少ないため、参加者がまとめたレポートや成果物をSNSや掲示板、港区 YouTube チャンネル、こども新聞等で広く周知する
- ・観光コースを作成し、水上タクシーの情報を含めたまち歩きコースを作成
- ・事業の取組をテレビ番組で紹介してもらう
- ・区報や駅・公共施設（公園、スポーツセンター）の掲示板等を活用した情報発信

3 この事業を通して、水辺に親しみや関心をもってもらうには？

改善／ 取組 アイデア	＜情報発信の強化について＞ ・レインボーバスやちいばすでの広告 ・成果物が広報されていないため、成果をSNSや動画で知らせる ・この事業が動いている事を多くの住民が知らない ・飲食店と連携するワークショップではSDGs 12（つくる責任、つかう責任）で効果をあげることを目標にして、そのワークショップ結果を広報する ＜参加者について＞ ・町会・自治会、マンション単位でイベントに参加してもらう ・子ども向けが多いため、大人向けの講座も実施 ＜プログラムについて＞ ・散歩したくなるよう、水辺環境を改善 ・水辺との関連イベントをもっと実施（去年は、水上タクシー1回しか水辺にふれる機会がなかったため、水辺での事業を増やすべき） ・サーキュラーエコノミーに関する取組をした人向けにインセンティブの設計。例えばサーキュラーLAB. で活動したら、ポイントをもらえるようにするなど ・芝浦心頭の無人倉庫を活用したワークショップ等の実施 ＜テーマについて＞ ・日常におけるごみの分別など、身近に自然と取り組めることを講座にするのが良いのでは（石鹸作成やコンポストの講座などは家に帰って継続的に取り組むことが難しい） ＜その他＞ ・水辺近くに立地する倉庫をサーキュラーLAB. の会場にするのはどうか ・事業実績について水辺との関連性が薄いように感じたので、より水辺を感じられる事業となるよう工夫する
-------------------	---

4 その他のご意見・提案

改善／ 取組 アイデア	・水質環境改善に取り組む企業と連携する ・水質改善に取り組んでいる都内の事例を研究して参考にすべき ・不要廃棄物の利用に関する勉強会の開催
-------------------	---

「バイエリアみどりでつなぐプロジェクト」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<稲作体験について> ・ 稲刈り等みどりにふれる機会があること ・ 田植え～稲刈りまで体験できることが良い ・ 田んぼを活用した取組が人気 <その他> ・ 「運河」と「緑」が芝浦港南地区らしい ・ グリーンツアーで地域の緑を知ることが良い ・ 身近な食材である作物を育てるのは良い ・ バラ園（芝浦中央公園）はとても良い場所（春と秋にバラが咲く）
----	--

2 食育・環境学習につながる工夫

改善／ 取組 アイデア	<食育につながる工夫> ・ マンションのベランダでもできる、家庭菜園講座を実施する ・ 収穫体験だけではなく、種まき～育てる～収穫～食べるまで体験した方が良い ・ 家庭で苗を育ててもらう ・ 田植え→稲刈り→米を炊いて食べるの一連の流れを体験できるようにする <環境教育への工夫> ・ 地域で育てている花木等の選定物や、苗をイベント等で配布する ・ どんぐりツアー（ウォーキングイベントをしながらどんぐりを拾う→拾ったどんぐりで創作→創作物を事業周知の際に配布） ・ 参加者が増えるよう、事業を工夫する ・ 植樹や剪定イベントの開催 ・ ボランティアの活用（植物の剪定等を地域の方々に手伝ってもらう） <プログラムについて> ・ 野草、いちょう、ドクダミなどより身近な植物の活用 ・ 剪定物の配布（バラ、サクラ） ・ 釣りツアー、釣り選手権の開催（運河に対する愛情が増えるのでは） ・ 田植えを地方で実施する地方遠征イベントの実施 <その他> ・ 地産地消の商品を開発して売り出す（「みなと特産ラーメン」など） ・ 企業等の屋上庭園を農場として活用する ・ 企業等と連携して体験できる田畑を拡張し、各企業の取組を表彰するなどして、緑化への機運を醸成する ・ 杉並区みどりのカーテン、葛飾区メロン育て隊等、他区の事例を参考にして取り組むべき ・ 建物壁面の緑化を推進する屋上庭園を農場として活用することは、地域事業としては難しいと思うので、街中のアドプト活動を推進してはどうか
-------------------	---

3 グリーンマップの活用方法

改善／ 取組 アイデア	<情報発信> ・ グリーンマップを広報紙やSNS等で案内するだけでなく、区民へ配布、人が多く集まる場所等に設置するなど広報の方法を検討する ・ べいあっぷ紙面で紹介 ・ グリーンマップを区民へ配布、芝浦港南地区周辺の駅、区内学校へ設置 <グリーンマップを活用したイベントについて> ・ 芝浦港南を訪れた人に配布し、観光マップとしても活用する ・ 今ある植物から「芝浦港南地区にふさわしい花」「みんなが一番好きな花」を決める ・ 季節を感じる花めぐりツアーの実施 ・ 桜を植樹して花見 ・ さくらマップの作成 ・ コンテスト形式で、まちなかで住民が見つけた植物を発信する場を設けるなど、まちをあげて緑化に取り組む仕組みがあると良い ・ 食育も取り入れたイベントを実施 <グリーンマップの記載内容の工夫> ・ 四季折々のグリーンマップを作成し、マップを活用したウォーキングの実施 ・ グリーンマップの各スポットにQRコードを掲載し、植物の詳細説明が表示されるようにする <グリーンツアーについて> ・ グリーンツアーで拾った植物（どんぐり等）を活用したワークショップ講座を実施する ・ グリーンツアー開催時期を考える ・ 通常通りに募集すると、参加者が固定化するため、新しい参加者を増やす工夫が必要 <その他> ・ メタセコイヤの並木道がとても綺麗なのでもっと多くの方に知ってもらえるよう活用する（もっと広く宣伝）
-------------------	---

4 その他のご意見・提案

改善／ 取組 アイデア	<積極的な情報発信> ・ イベントお知らせ方法の検討 <その他> ・ 鳥の島の復元 ・ 街中にキャンプ場を設置し、芝浦港南地区産の食材を提供する ・ 今ある緑を大切に取る取組の検討 ・ 芝生を増やす
-------------------	--

「バイエリア防災リンク事業」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<区からの情報提供> ・地域事業の活動として大切な事業と感じた。行政ならではの取組であることが評価できる ・地域特有の課題（高層住宅・液状化など）を広く共有していこうとする取組が良い <事業者・住民との連携> ・地域、学校（芝浦工業大学など）、企業の連携は評価できる ・地域防災連絡会参加企業向けのワーキングセミナーの実施 ・地域防災協議会との連携活動 <防災展> ・展示の来場者が多い ・年2回の開催が良い
----	---

2 地区特有の防災対策、より多くの在住・在勤者が知るための工夫

改善／ 取組 アイデア	<参加者の拡大に向けて> ・事業者向けセミナーではなく、住民も対象としたより広い防災セミナーを実施する ・高齢者を対象とした防災対策セミナーの開催 <新たなイベントや取組> ・オンラインでセミナーを開催した方が良い ・住民が自身の避難場所を確認するようなイベントの実施が必要 ・学区で避難場所が分かれていることの周知が進んでいないので、住民に必要な情報を届ける ・避難ルートの確認ツアーなどの体験型イベントの実施 ・川や運河を船で避難するルートの確認ができるイベントの実施 ・防災グッズの使い方、ケガの対応について学ぶワークショップの開催 ・防災まち歩きイベントなど、楽しめる防災体験イベントの実施 ・防災オリエンテーリングや防災検定などの実施 ・防災行政無線で放送する内容を聞くことができる「防災ラジオ」を希望する世帯に有償で配布していることをPRする ・浸水の場合における避難場所の確認 <住民向け防災セミナーを開催する場合のテーマ> ・武蔵小杉タワーマンションでの被災者体験談 ・タワーマンション住民を対象とした、高層住宅の防災に関するセミナー開催 ・水上タクシーを活用した防災対策のPR ・組織だけでなく、個人での判断や避難する練習、避難場所の把握が必要 ・在住・在勤者が避難場所を知ることができるよう、避難所を活用したイベントの開催 ・首都直下型地震発生を想定するなど、セミナーの内容をより具体的に ・ボランティアを対象とした避難所設置訓練を実施
-------------------	---

<防災展の工夫>

- ・パネル展示の巡回の実施（図書館、子育て支援施設、学校、社員食堂、マンションエントランスなど）
- ・地区特有の防災対策のパネルを展示
- ・より多くの参加者に集ってもらうために、展示場所で防災備蓄品を購入できるような販売場所の設置
- ・ローリングストックの実例や家庭での対策のパネルを展示
- ・防災展開催時に、住民向けのセミナーやミニ講座などの追加イベントを行う
- ・自衛隊の炊き出しの体験など規模が大きい防災展の開催

<情報発信>

- ・優良企業や事業所の表彰を行い、広報などでPRして地域にアピールする
- ・集客力強化を目指す上で、防災展の告知や認知度アップのための工夫が必要

<その他>

- ・事業者や住民に対し防災士の資格取得を支援
- ・港区防災士養成講座の復活

3 事業者向けの防災セミナーで地域住民との交流（地域防災協議会など）

改善／ 取組 アイデア	<セミナーの形態・テーマ> ・マンションの階段上り大会などの体験型イベントの実施 ・個人でできる防災の取組を専門家が教えるセミナーの実施 ・事業者による、住民向けの防災備品に関するオリエンテーションの実施 ・防災協議会と連携したセミナーの実施や模擬訓練の開催 ・マンションの管理組合と連携したセミナーの開催 ・防災士資格の取得支援（AEDの体験など災害に備えた知識の取得） <セミナー対象者> ・事業者だけでなく、住民にも同じセミナーを実施し共通認識を持たせる ・炊き出し体験など、子ども向けイベントの実施 <セミナーの協力者> ・消防署や警察と協働したイベントやセミナーの実施 ・警察・消防と住民が情報交換できる機会の提供 ・専門家による地域の住民に危険を知らせるセミナーの実施 <セミナー後の取組> ・オンラインセミナー後でも参加者がつながることができる場所の提供 <その他> ・事業者向けのセミナーの一部をYouTubeなどで配信
-------------------	---

「水辺フェスタ」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<実施環境について> ・会場の場所が適切 ・芝浦港南地区の地域特性を生かした取組 ・熱中症対策の日よけのテントがたくさん置いてあるのが良い <競技について> ・ボートレースが年々盛り上がっている ・地域対抗のボートレースであること <その他> ・参加者・応援客・観客などの多くの人たちも関わる事ができる事業 ・参加者同士の交流になっていること ・ボートレースのPR映像が良い ・応援団の発表の場になっていることが良い ・継続して開催していること ・体力の向上につながるので大変良い ・事業目的と事業内容が合致して良い
----	--

2 イベントを通して水辺の魅力を身近に感じる工夫

改善／ 取組 アイデア	<ボートレースの工夫> ・団体では参加できない人たちが参加できるよう個人戦を開催 ・勝利チームが勝利の証として、運河に植樹などができると良い ・豪華な参加賞を用意 <競技以外のアクティビティやイベント> ・タイの水上市場のようなものを同時開催。水辺に親しめるよう、花火などでイベントを華やかに演出 ・レースに参加しない子どもも遊べるように、お台場プラーージュのような海水浴を同時に開催。水辺がにぎわうイベントをひとまとめに開催すると、ますます盛り上がる ・イベントをより一層盛り上げるためにレースを実況中継 ・子どもや競技に参加しない人も楽しめるような内容を企画。6人組で参加するボートレース以外に、2～3人組で参加できる別の競技やアクティビティを同時に開催。例えば、SUP、シュノーケル、海水浴、ビーチフラッグ、ビーチバレーなど ・事前申込み無しで当日参加できる種目を実施 ・小学生のマラソン大会などを同時開催 ・砂浜に景品を隠した宝探しイベントの同時開催 ・イベント中に水遊びができるエリアを設置 <応援に関する取組> ・屋形船などで観戦 ・運河から船で参加・応援できる仕組みづくり
-------------------	--

	<別事業やイベントとのコラボレーション> ・イベントの日を華やかにする花火などの演出 <競技終了後の取組> ・運河で優勝パレードを実施 ・交流促進のために競技後の交流会を実施 <その他> ・台場のマリナハウスで扱ってもらうなどゴムボートをいつでも使えるようにする ・仲間づくりのために自分たちでボートを作る体験を実施 ・区民へのアピールとして、PR映像を活用
--	---

3 芝浦・海岸二・三丁目、港南、台場の3地域の交流やコミュニティ形成の促進につながる取組

改善／ 取組 アイデア	<情報発信> ・参加方法がわかりづらいため周知の方法を改善 ・地域交流ができるように宣伝に力を入れる <実行委員会や参加者全体での交流> ・イベントの継続を見据えて、ボランティアの裾野を広げるため、実行委員会などのボランティアと大会参加者の交流会を開催 ・イベント当日に地域ごとの交流エリアを設置 ・交流を促進するための工夫として、地域間の交流ができる飲食エリアを設置 ・物々交換などの交流の場を設置 <参加者の拡大> ・一人でもチームに参加できる制度を設置 ・初めての方が参加しやすいよう、募集時に初参加者の枠を設ける <イベント前の取組> ・練習用ボードの貸出 <イベント後の取組> ・イベント後の交流会の開催 <その他> ・ボートは体力を使うため、仮装などの身体の負荷が少ない参加方法を検討 ・水泳大会の実施
-------------------	---

「歴史と文化がつなぐ地域交流事業」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	・ 都会の子が自然体験や田舎体験ができること ・ 農業など自然を体験できる事業であること ・ にかほ市との交流でホームステイは良い ・ 柳津町の野菜販売 ・ 一般家庭と交流があること ・ 白瀬隊長の故郷や柳津町の花火など、港区と関係がある地域との交流。歴史を知らない子どもにとって意義深い
----	---

2 「秋田県にかほ市」の方に、港区の魅力を知ってもらうための取組アイデア（感染対策を踏まえ）

改善／ 取組 アイデア	<テレビ局や映画等ロケーションに関する取組アイデア> ・ 修学旅行でにかほ市から港区にきた児童・学生を案内 ・ 屋外などでテレビの撮影現場を見学。テレビ局内を見学 ・ 港区にはテレビドラマや映画にでてくるロケーションがたくさんあるため、区民ボランティアが区内を案内する ・ 修学旅行等で芝浦港南地区を選んでもらえるよう、案内コースを作成するなどのPR <地域資源、港区PRに関する取組アイデア> ・ 水上タクシーで東京湾を遊覧 ・ 子ども同士の交流促進のため、東京湾クルーズなどの地域資源を活用した遊びの場を提供 ・ ゆりかもめ乗車体験などの「都会体験」を実施 ・ 鉄道発祥の地や遺跡、プロ野球発祥の地、1940 年開催予定だったオリンピックの開催候補地であったことなどをPR ・ 高輪ゲートウェイ駅周辺で発掘された鉄道遺跡の紹介 ・ お台場の自由の女神など、芝浦港南地区にしかない資源の活用 ・ お台場夏まつりに招待 <他の地域事業との連携に関する取組アイデア> ・ 水辺フェスタなどの芝浦港南地区の地域事業に参加 ・ 交流事業の中で子ども達に参加してもらうことで、親を含めた住民同士の交流を促進 <その他> ・ にかほ市と交流している理由を住民に理解してもらえるようなプログラムの作成 ・ 夜景見学などの大人向けの港区での体験 ・ 参加人数の拡大 ・ 1 回だけでなく継続した取組になるような工夫 ・ 白瀬隊長と関連して、船の科学館の南極大陸観測船を見学 ・ にかほ市への個人旅行者に対し、港区民限定の体験メニューの無償提供や補助の実施
-------------------	---

3 既に交流のある「福島県柳津町」について地域の方に知ってもらう取組アイデア

改善／ 取組 アイデア	<物産販売> ・ 交流事業を広げるには、大人の認知が必要であるため、体験型のそば打ちセットやまんじゅう作りセットの販売 ・ 港南緑水公園やみなとパーク芝浦、札の辻スクエアでの関連食品販売 ・ 柳津町の物産展を事業者等と連携し企画 <広報> ・ お台場夏まつりの花火の復活。柳津町との関係性（交流のきっかけや経緯）を毎年紹介 ・ 交流・体験したことを取材し、具体的な内容を広く区民に周知 ・ 田町駅改札の前に宣伝ブースを設置 <港区内での受け入れに関する取組> ・ 修学旅行や連携都市の児童の宿泊体験ができるように、区の施設を整えて活用 ・ 連携都市として祭りに協賛してもらう <港区民が柳津町を訪れるための取組> ・ 港区民が柳津町の花火大会を観覧 ・ 連携都市として港区民限定の体験メニューを提供 <参加者の拡大> ・ 小学校単位ではなく、芝浦港南地区全域の子どもを対象としたオンラインを活用した交流の実施 ・ 学校を通した周知方法の工夫
-------------------	--

4 その他のご意見・ご提案

改善／ 取組 アイデア	・ 災害時の避難先を想定した交流 ・ 天王洲のようににぎわいを生み出す施設を芝浦港南地区に設置
-------------------	--

「SKDs 学びのまちプロジェクト」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<参加者について> ・小学生から中学生の住民が継続して参加できる取組 ・年代ごとに対象者を分けていること <地域との連携> ・東京海洋大学と既に連携して事業に取り組んでいること ・地域の企業・団体との連携 <テーマ設定> ・小さな段差も気づけるような、バリアフリーな視点で行動変容を促していること ・まちを見る視点や地域課題を見る目を育てること ・世代ごとのテーマで進めていること ・小学生～大学生の若い世代に地域を知ってもらう内容が良い ・運河や環境など地域資源を活用していること ・高校生や大学生にSDGsの視点で自分の活動を促すこと <その他> ・部活動のような事業内容が面白い
----	---

2 20代～40代を中心とした「より地域とつながる」新たな取組（感染対策も踏まえて）

改善／ 取組 アイデア	<参加者について> ・対象者年齢の拡大 ・親子など世代をまたいで参加できる事業やイベントの実施 ・対象世代が興味をもつように周知方法を工夫 <新たな取組> ・子育て体験（ベビーカー体験など）の実施 ・子育て世代を対象としたプログラムの実施（ママ会、パパ会など） ・家庭でできるカーボンフリーの生活の推進 ・地元の企業や大学と連携した社会見学の実施 ・オンライン等ICTを活用したイベントの実施 ・ランニングコースを作成するなどの健康増進につながる取組の検討 <地域との連携> ・ママ友の会を活用 ・大学との連携 ・地域にある産業・企業の見学会の開催
-------------------	--

3 高校生向けに「より地域とつながる」新たな取組

改善／ 取組 アイデア	<参加者について> ・港区内の全高校や地区内在住の高校生に対象を広げるなど、高校生の参加者数の拡大
-------------------	--

<新たな取組> ・高校生が多世代に対して発表できる場の設置 ・学校で実行しているSDGsを区民にプレゼンする機会を提供 ・SDGsアクションブックを小中学校で活用 <地域との連携> ・学生が地域の企業に関心を持ち、進路の参考となるように、企業や大学と連携し社会見学会を実施する ・企業にプロボノ活動として高校生向け事業に参画してもらう ※プロボノ：各分野の専門家が職業上携わっている知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動のこと <その他> ・作成したSDGsアクションブックを、計画後期に高校生が実行できるような取組
--

4 （本事業を）多くの人に知ってもらい、参加につながる工夫

改善／ 取組 アイデア	<新たな取組> ・世代ごとのSDGsアクションを考えるようなワークショップの実施 ・若い人の関心事によりそった事業内容の検討（例えばSDGsカードゲームは、リアルでもオンラインでも利用可能） ・各世代の取組に対し、児童や生徒を表彰する <参加者拡大> ・40代以上も対象者として広げる ・芝浦港南地区内全ての学校で取り組めるプログラムの構築 <世代間交流> ・地域住民がファシリテーターを担うようなプログラムの実施 ・地域のコミュニティ活動（町会・自治会）やボランティア活動と接する機会の提供 <広報> ・事業名が分かりづらいので、より伝わりやすい表現に変更する ・継続して参加しやすくなるような告知方法を工夫 ・事業活動をアーカイブで閲覧可能にするなど、事業内容に関する情報発信を行う <その他> ・小学生の夏休みの課外活動として実施
-------------------	---

5 その他のご意見・ご提案

改善／ 取組 アイデア	・小学生向けの障害者や高齢者の目線になれるような事業を検討 ・社会福祉協議会と連携した地域のコミュニティ活動の実施 ・中学生向け事業もオンラインでの提供をしてはどうか。インセンティブも合わせて検討するのも良いのでは（例：ノベルティグッズのプレゼントを、オンライン参加者かつアンケート記入者に3回、5回などの参加回数に応じてプレゼント） ・地域住民が身近に感じている社会課題や取り組みたいことを、地域住民が主体となって、行政や企業と協力しながら課題解決に取り組み実現する、その仕組みの構築
-------------------	--

「みなとパーク芝浦ふれあい交流事業」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<参加者について> ・ イベントへの参加者が多いこと <各種イベント・アクティビティについて> ・ 運河クルーズなどの屋外イベントが良い ・ 既存のイベント内容が面白い（ドクターイエロー、ポッチャなど） ・ 運河クルーズや移動動物園は子ども目線になっているので良い ・ イベントにおける相談会の実施（ハードルが下がって、行きやすくなりそう） ・ ポッチャなど、パラリンピック競技の体験ができるのが良い <目的設定> ・ コミュニティの形成や、世代間の交流を目指しているのが良い ・ 世代間交流は良い企画 ・ 実施内容はバランスよく、住民が交流する機会となっている ・ 子どもが楽しめるイベント ・ 普段来ない人が来るきっかけになっている <開催場所について> ・ 地域の特徴を生かしている（運河や公園の活用）
----	--

2 感染対策を講じたイベントの開催方法の工夫

改善／ 取組 アイデア	<開催日時・場所の工夫> ・ 休日だけでなく平日も開催するなど、様々な世代が参加しやすいよう日程を調整 ・ 開催場所を広げて人を分散させる。（公園、伝統文化交流館、札の辻スクエア等の活用） ・ 感染症の状況が落ち着いたら、一部イベントを細分化して実施回数を増やす ・ 小学生や園児が平日に参加して交流することができるイベントの検討 ・ 港南や芝浦、台場など地域ごとを対象としたイベント開催の検討 ・ 消費者センター、港区スポーツセンター、ラクっちゃ、男女平等参画センター等を活用した施設のPR <各種イベント・アクティビティについて> ・ 屋外だと感染症対策になり、イベントを実施しやすい（カニ護岸でカニ釣りなどのイベント） ・ 飲食以外の露店を出す ・ リモートを使ったイベントの企画 ・ バーチャルイベントとして開催し、アバターで参加できるような事業にする ・ 館内スタンプラリーの実施 ・ 芝浦マルシェ、お祭り（盆踊り）などの同時開催 <その他> ・ ワクチン証明書を活用したイベントや特典の検討
-------------------	--

3 芝浦港南地区KIDSフェスタ、地域の世代間交流の工夫

改善／ 取組 アイデア	<事業名の検討> ・ 多世代・多様な参加者を対象としたイベント名を再考 ・ 世代間交流をイメージできないため、事業名を再検討 <プログラムの工夫> ・ 事業名の「ふれあい」を強調してより幅広い世代の参加を促したほうが良い ・ シニア世代が教えるワークショップなどの実施（うちわ作り他） ・ 障害者スポーツに対する理解のために、ポッチャ、車いす乗車など「体験」できる機会を増やす ・ 昔のおもちゃ（メンコ、ベーゴマ、ぶんぶんごま、竹細工）を制作して共に遊ぶなど、高齢者と子どもが交流できる機会の創出 ・ フリーマーケットを実施し、子育てが終わった人が次の世代に販売することで、世代間交流を促す ・ 多世代間でチームをつくって参加できるイベントを開催 ・ 芝浦港南エリア在住の外国人による文化交流イベントの実施 ・ 伝統文化や地域の歴史について学ぶイベントの実施 ・ 見番や花街についてまち歩きしながら紹介する ・ スタンプラリーで文化を見て歩く ・ スマホを利用した非接触スタンプラリーの開催 <単発イベントで終わらないための工夫> ・ その場限りの参加にならないよう、体験会の事前学習など連絡を取り合える仕掛けづくりを検討 ・ 観葉植物の配布や育て方の講習会を実施 ・ 小中学生向けの演目を増やす ・ 子ども同士が交流できるようなイベントを実施 <他施設とのコラボ> ・ あいぶら（港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ）との共催イベントの実施
-------------------	---

「子育てあんしんプロジェクト」ワークショップの記録

ワークショップで出た主な意見をまとめました。

1 本事業で評価したい内容

評価	<プログラムおよび実施形態について> ・ プレママ相談の取組が良い。パパ・ママ同士の交流につながることや、ママへの教育の機会になっている ・ 定期的に開催され、頻度も多く人気が高い ・ 歩いて行くことができる場所での開催が良い ・ 地域の施設での開催が良い ・ ベビーマッサージなどの講座（実際に参加した後、7年間のつきあいに繋がった出会いがあった） ・ 交流の場となっていること ・ 要望が多い取組の実施回数を増やしていること <事業目的について> ・ 子育て世帯が不安に感じる問題に取り組んでいること ・ 孤立化や虐待の防止という目的が、社会課題と合致していて良い <その他> ・ イベント後の交流につながっている（地域の仲間づくりになっている）
----	---

2 孤立化を防ぐために、地域での交流促進

改善／ 取組 アイデア	<開催場所・方法の工夫> ・ 場所を選ぶことができるなど、赤ちゃんを連れて自由に行ける場所をいくつか設ける ・ リアルだけではなく、SNSやITを活用した情報交換の場を設ける（LINEグループなどの運用） ・ 対面以外にも、情報交換やテーマの無いおしゃべりの場も必要 ・ 感染症対策として定員を減らし、回数を増やす ・ 参加者の連絡先を交換する場を設けては（希望者のみ） ・ 常設の子どもと保護者の交流場所を各地区につくる <父親の子育て参加の促進> ・ パパ・ママの教育につながるよう、相談会の回数を増やす!! ・ ワンオペを防ぐためのパパ向けイベントの検討 <近い月齢での乳児・保護者のつながりづくり> ・ 育児相談の後に、その場で月齢に近い人を集めて、かるがもくらぶを開催 ・ イベント1回では友達にはなれないのでシリーズ化する <その他> ・ この活動の利用者の声を聞いて、満足度の指標化をする ・ 子育て経験者等のボランティアが父親を助けるなど、子育て中の方の手助けや交流ができる場があると良い ・ 参加者同士のワーキンググループを開催する ・ シニアやボランティアに子どもをみてもらうなどの協力・交流
-------------------	--

3 「かるがもくらぶ」の参加者の層の拡大と、魅力的なプログラムの工夫

改善／ 取組 アイデア	<多様な参加者の取り込み> ・ 平日ではなく、土日にたくさん開催する。保育園ママ・パパが参加しやすいよう配慮する ・ 1歳にも対象を拡大 ・ かるがもくらぶの対象年齢が限定されているので、5ヶ月の子ども以外にも機会を設けてはどうか。子育てはずっと続くので、様々なタイミングで参加できるプログラムを提供する ・ 沐浴やよくある悩み、一般的な知識は動画化してウェブ上で閲覧可能にしてはどうか。ウェブ上での公開が、参加者の増加につながる ・ 土日休みではない保護者も多く参加することができるよう、様々な開催日時で設定する ・ リモート開催の検討 ・ 広く宣伝・周知する ・ プレパパ又はプレ両親が相談できるような講座の実施（沐浴練習 for パパなど） <父親参加に特化したプログラムやサポート> ・ 父親向けイベントが必要 ・ 「プレママ」だとママだけに参加者が限定されるようにみえるため、「プレ親」と表記を変えてパパにも参加を促す ・ パパも一緒に参加することができる別バージョンの会も作る ・ 育メンも参加できるように、パパの参加している写真がチラシにあると良い。文章でも「パパ募集」と入れる（記載例：パパのみ（夜）、パパとあかちゃんのみ） ・ 父親交流会を実施 ・ 父親の子育て参加を促す、パパクラブの運営 <プログラムの工夫> ・ ママの産後ストレスケアとして、相談やおしゃべりができる機会を充実させる ・ 子育て中のパパ・ママのニーズをつかむ ・ 母親の息抜きイベント（子連れヨガなど）を実施 ・ 母親向けの精神科や婦人科医師の相談会などをイベントで実施する ・ 育児の悩み相談所の設置 ・ 子育ての問題点の洗い出しや、子育て世代の問題発掘と解決のためのワーキングプログラムの実施 <その他> ・ 子育てのベテラン（高齢者）に参加してもらう ・ 講座回数を増やすのではなく、かるがもくらぶを常設化して、より気軽に参加できる機会を提供してはどうか ・ 専門職が沐浴などの子育て講座をするだけではなく、子育て経験者が参加して講師をすると良いのではないか（子育て世代の縦のつながり）
-------------------	--

ワークショップの様子



港区基本計画・芝浦港南地区版計画書
改定に向けた提言書

令和5(2023)年3月発行

発行・編集

港区ベイエリア・パワーアッププロジェクト
地区版計画検討分科会